



多古町のこれからの観光は

多古町は歴史的にも重要な地域で、縄文、弥生の古代から栄えてきました。いろいろな要素を持つ多古町のこれからの観光について伺います。観光ボランティアガイド養成講座特別カリキュラム、多古町中世城跡めぐり学習会はどうでありましたか。

住民主体の観光まちづくり実現に向けて

答 住民主体で進められる、観光まちづくりを実現できるよう取り組みます

問 多古町のこれからの観光は



問 空港の機能強化は町の発展につながるのか

答 成田空港の更なる機能強化を多古町発展の契機にしなければなりません。

◀空港との共生共栄へ

町長 今回の機能強化では、多古町において、300ヘクタールを超える面積が空港敷地となり、多古町側に新たな滑走路が整備されることから、多古町発展の契機にしなければなりません。機能強化は、2024年度開通目標の圏央道と併せ、多古町の人口減少に歯止めをかけ、

問 空港機能強化をチャンスに

問 空港が開港して40数年経過しましたが、「地域の発展」と「空港の発展」が好循環する地域づくりは進んでいるのか伺います。

町長 多古町が空港とともに発展していないことは事実であり、多古町は空港の裏側と揶揄されることもあります。しかしながら、これは多古町に限ったことではなく、空港西側地域を除く空港周辺地域では、高齢化・過疎化が進み、人口減少などにより疲弊している状況であり、空港の東西間での経済格差が生まれている状況です。

問 空港の機能強化は、圏央道の2024年度開通も絡み、町の活性化を進める上で大きなチャンスと考えますが、これに取り組む町長の決意を伺います。

町を活性化させる大きなチャンスであると考えています。圏央道と空港の立地を生かした土地利用を図り、地域の発展につながる土地利用の促進として、新たな雇用の場となる企業誘致、移転者及び空港従業員の住宅用地や商業用地なども検討、要望しているところです。私は、多古町民の生活、未来を預かる責任ある立場として、真の空港との共生・共栄を図るべく、地域の発展と空港の発展が好循環する地域づくりの実現に向けて、引き続き最大限の努力をしてまいります。

問 第4ターミナルの誘致を要望していますが、町のメリットについて伺います。

町長 空港施設の中でも代表的な施設である旅客ターミナルを誘致することにより、空港の裏側と揶揄されている状況を変えることができるほか、旅客ターミナルビルに整備される交通網を空港東側の多古町まで延伸させる可能性もでてきます。さらに、多古町への固定資産税等の税収が大幅に上がることを考えられます。このように、第4旅客ターミナルビルが多古町にできると、空港へのアクセスも格段に向上し、交通便利性の

と各分野の方々に出席をいただき、得られた貴重なご意見をもとに、今後の方向性を示す観光まちづくり計画を策定するとともに、観光の中核的役割を担う組織づくり、更には地域商社への発展につなげていきたいと考えています。参加者の方々とも、これからの観光を本気で考えていく時期であるという意識を共有できたと認識しています。歴史的資源や自然豊かな景観を背景として、志ある住民主体で進められる、多古町らしい観光まちづくりを実現できるよう取り組んでまいります。

町の歴史振興を

問 多古町歴史講座「千田庄と千葉氏を探る」、この講座を通して他の地域の方々との交流ができ、町内外から高く評価されていますので、次年度も開催していただきたい。

教育長 毎回熱心な歴史ファンが集まる人気の講座となっております。来年度についても、千葉氏研究者の皆様とも協議しながら、多古町の歴史をより一層理解していただく機会を提供してまいります。

問 多古町は歴史と伝統文化にあふれる町です。歴史資料館をつくり、空港に近い立地を生かして多古町を一層PRしていくべきと考えますが、将来の展望を伺います。

教育長 現時点において歴史資料館の整備予定はありませんが、たこらばの文化財コーナー



PR強化が求められる歴史と伝統文化

について、より一層内容の充実を図るとともに、多古町デジタルアーカイブの有効活用等により、豊富な歴史資源の情報発信とPR強化に努めてまいります。

安定的な給水が可能に

問 昨年のような災害が発生しても断水することなく、町営水道による水の供給確保ができればいいか伺います。

町長 水だけでも自分たちの力で何とか確保したいと考え、9月議会において非常用発電機3台分の整備費用として予算の補正を行いました。予算の範囲内で業者と交渉した結果、今回6台の発電機を購入できる見込みとなりました。これにより、昨年並みの台風被害による長期停電が発生した場合でも、断水することなく安定的な給水が可能となります。



昨年は台風被害で断水が長引いた

